

(一) 子どもの心の奥深くにある「本音」にたどり着くために

① 関係を築く段階

言うまでもありませんが、子どもの声を聴く際に、最初の段階で私たちがすべきことは、まず子どもとの関係を築くことです。子どもとの関係形成がなければ何もはじまりません。

私が子どもとの関係を築く際に大切にしていることは、子どもが関心を持つていることに関心を寄せるということです。例えば、子どもがゲームに関心を持つていれば、そのゲームのストーリーや登場人物、ゲームをする時の楽しさなどを話題にします。また子どもがサッカーや野球などのスポーツ観戦に関心を持つていれば、選手のことやスポーツを観るときのワクワク感などを話題にします。つまり、子どもが関心を抱いている事柄や大事にしている世界観をそのまま受け止め、「関心事に関心を寄せる」こ

とで子どもの心のバリアをほぐし柔らかくしていきます。

② 愚痴や不満が出てくる段階

関係を築くことで子どもの心のバリアがほぐれると、次第に子どもたちから愚痴や不満が聴かれるようになります。例えば、「あいつ、むかつく」「あのせいで、できない」など学校生活での愚痴が聴かれたり、「お母さんはいつもお姉ちゃんのことばかり」など家庭生活での不満が出てきます。このような発言を単なる愚痴や不満とみるのではなく、子どもを身動きできなくさせているものが出てくると受け止めることが必要だと思います。すなわち、子どもの愚痴や不満は、他人や環境との関係のなかで感じている葛藤であると捉えることができます。

③ 傷つきや不安が表出される段階

つぎに、学校や家庭生活での愚痴や不満が表出さ

れ、それをおとなに受け止められていると感じると子どもたちの心に安心感が生まれ、さらに深い部分を話題にするようになります。例えば、「親に話を聞いてもらえない(愚痴)」。それがすごく辛い(傷つき)。「や」周りが騒がしくて勉強に集中できない(不満)」。学習が遅れそうで心配だ(不安)」。などです。このように、子どもが身動きできない状態から感じている気持ちや体験を具体的に語ることで、心の裏に隠れている傷つきや不安が表出されるようになるのです。

④ 願望や葛藤といった「本音」が姿を現す段階

そして、傷つきや不安が子どもから表出されると、次第にそれに対する願望や葛藤といった本音が姿を現します。例えば、「親に話を聞いてもらえない(愚痴)」。それがすごく辛い(傷つき)。本当はもっと私にかまってほしい(願望)。「や」周りが騒がしくて勉強に集中できない(不満)。学習が遅れ

そうで心配だ(不安)。だから「静かにして!」と伝えたいけど自信がない(葛藤)」。などです。おとなが「どうしたいの?」「どう思っているの?」などと声をかけると、子どもが抱いている願望や心の中の葛藤が引き出されることが多くあります。このようにして、心の奥にある「本音」の部分がじわりと姿を現すのです。

このように、①関係を築く段階→②愚痴や不満が出てくる段階→③傷つきや不安が表出される段階→④願望や葛藤といった「本音」が姿を現す段階というプロセスを経て、心の奥深くにある本音が現れるのです。

しかし、このプロセスは直線的に進むものではなく、それぞれの段階を行ったり来たりしながら、少しずつ進んでいくものと捉えた方が良いと思います。子どもの現状と心の準備(レディネス)に合わせ無理なく進めていくことが肝要です。